

3

3

台
灣

3)

0048

外機密

極秘

電信寫

(3) 台湾		年 月 日	件 名
昭二〇	八二五		敵國委員來台に関する件
〃	八二九		中國總領事の取扱振に関する件
昭二一	三一〇		台湾の現況

昭和二〇 一〇三八一 暗 臺北 八月二十五日一五〇〇發 本省 二十五日一八二〇着 政

重光外務大臣

成田外務部長事務取扱

第三一號 大至急

(敵國委員來臺ニ關スル件)

停戦條約ノ締結ニ伴ヒ各國委員來臺スヘシト思料セララルル處接遇其他ノ都合モアルニ付本件ニ對スル御見込御回電請フ(了)

1100



27 い号

記帳済

0050

場券

(分類)

電送第 10337 號		主管
年 月 日 時 分 發		政務局長
件名	宛	主任 政一長
敵国委員来台ニ関スル件	台湾總督府 成田外務部長事務取扱	
第 二六 號	記録件名	重光大臣

電信課長

發電係

昭和二十年八月二十七日起草

貴電才三二号ニ関シ

聯合國最高司令部ヨリハ本ダ何等ノ指示ナキモ往電合才六八三

号(三)通リ在日軍ハ蔣司令石ニ降伏スルコトナリ居ルニ付

電信案

外務省

(日本標準規格 B5)

0051

右実行ノ為何レ支那軍ニ進駐行ハルモト認ナラシ

高最高司令部官又ハ支那側ヨリノ指示ニ接シ次才電報ス(シ)

(事件ニ関シ未)

電信案

外務省

(日本標準規格 B5)

密

秘

電信寫

職務執行終了
の旨を他来と同様のてい
で

昭和二〇一〇五〇三 略 臺北 八月二十九日一五〇〇發 政
本省 三十一日〇五四五着

重光外務大臣 成田外事部長代理

第三二號

(中國總領事ノ取扱振ニ關スル件)

當地駐在中華民國總領事ノ身分及其取扱振ニ關シ何分ノ儀御指示
願度

場案

傳書係長

(分類)

電 信 案	取 扱 に 従 来 ト 同 様 ニ セ ら レ タ ル	南 京 政 府 解 通 書 今 日 其 前 合 先 生 ヲ 以 テ 次 才 十 七 其	管 電 第 三 二 号 通 信	電 送 第 10487 號	主 管 政 務 局 長	昭 和 二 〇 年 九 月 九 日 前 發	時 三 分	發 宛	政 務 局 長	電 信 係 長
				第 二 九 號	主 任 政 一 長		發 件 名	發 件 名	發 件 名	

(日本標準規格 B5)

電信係長

發電係

昭和二十年九月

日起草

記録簿

0053

○支那派遣總軍ヨリノ申請ニ対スル回答ニ付スル件

九月四日午後四時

内閣調査局ニ於テ

の務者ヨリ

長官ヨリ陸軍部ニ課長
終務四部ニ
リ

赤帯

現地ニ於ケル停戰協定ニ際シ臺灣南關ニ考慮
セラレトス事項

南軍ニ於テ停戰協定
九月六日署名

一、重要主義
二、甲入ルルコト
三、三、内容
四、優先的ニ取扱
五、日本ノ生命
六、財産ノ保護
七、行中國側
八、責任ヲトス
九、コトヲ要スル
十、コトヲ要スル
十一、コトヲ要スル
十二、コトヲ要スル
十三、コトヲ要スル
十四、コトヲ要スル
十五、コトヲ要スル
十六、コトヲ要スル
十七、コトヲ要スル
十八、コトヲ要スル
十九、コトヲ要スル
二十、コトヲ要スル

臺灣ハ從來支那大陸ト事情ヲ異ニシ別箇ノ完整セル行政組織
ヲ具備シ来リタルヲ以テ之ガ接收ノ場合ニ於テモ既存ノ行政組
織及社會經濟ノ秩序ヲ尊重ノ上之ガ活用ヲ圖ラレルトス

二、特ニ左ノ諸點ニ関シ特段ノ考慮ヲ拂ハレ度
(岡村總司令官ノ参考ニ供スル意味ニテ返事スル建前)

一、中國戰区中國陸軍總司令部備志録中第六號第三條
ノ精神ニ依リテ
二、同第三條ニ示サレタル糧食、運輸器材、包装材料、倉庫施設
ノ維持ニ必要ナル限度ニ於テ之ヲ許容セシメラレタキコト

糧食工場其他ノ糧食關係機具器材ハ臺灣島民ノ生活維持
ノ為ニ必要ナル限度ニ於テ之ヲ使用セシメラレタキコト

三、同第四條ニ示サレタル事項ニ付テハ臺灣島民ノ生活維持ノ為ニ必要
ナル限度ニ於テ運送並ニ供給ヲ繼續セシメラレルトスニシテ其ノ保管
ノ責任ハ既存ノ行政組織ノ系統ヨリテ之ニ當ラシメラレタキコト

四、中國軍 臺灣進駐ニ當リテハ特ニ治安ノ維持ニ関シ格段ノ
留意ヲ拂ハレ度ニシテ左ノ措置ニ付テ考慮セラレタキコト

一、日本帝國軍隊ノ武装解除後ニ於テモ現在ノ警察組織
ヲ強化シ武装警察官ヲ認メ治安維持ニ協力セシメラレタキコト

只臺灣島中各地ニ自治新組織ヲ設ケ治安維持ニ努ムルベシ

既ニ中興及現地ニ於テ
重要ニテ交渉シガレリ

自衛ノ途ヲ拓カレタキコト

五、臺灣在住邦人ノ生命、財産、居住、營業ノ自由ヲ尊重セラ
ルルト共ニ特ニ左ノ諸点ニ付考慮ヲ拂ハレタキコト

イ、在住邦人ノ生活維持上必要ナル限度ニ於テ相互扶助ニ関スル措置
ヲ容認セラレタキコト（例、救護団体ノ設置等）

只農業移民其他ノ内地人ト日本政府トノ間ニ締結セラレタル土地
其他ニ関スル契約ヲ中國政府ニ於テモ継承セラレタキコト

六、現存ノ重要企業ニ付テハ出来得ル限り日華協調ノ建前ノ下
ニ之ヲ尊重保續セシメラレタキコト

2

七、中國軍ノ進駐ニ因リ臺灣ニ軍政施行セラレ總督府ノ機能休止
スル場合ハ之ニ代ハリ在住邦人ノ保護、企業ノ整理等ニ任スベキ

日本帝國ノ出先機關ノ設置ヲ認メラレタキコト
過渡的ニ總督府ヲ置キ之ヲ終戦ノ勢ニ理向トシテ設置
行政機關

八、臺灣在住邦人中本土引揚ヲ希望スルモノニ對シテハ特ニ便宜
ヲ許サレタキコト

九、臺灣ニ於ケル文化、自然、兩科學ノ水準ヲ維持シ更ニ之ガ發展
ニ關ル為其ノ人的基盤ヲ邦人ニ付テハ特段ノ處遇ヲ考慮
セラレタキコト

十、鐵道、通信、港灣、産業等ニ於ケル邦人職員ノ處遇、隨シテハ
極力之ガ活用ヲ考慮セラレタキコト

不
事

亦
此
ノ

3

十一、既存金融機関ニ付テハ經濟混亂ヲ生セガラシムル為其ノ
債權債務ヲ尊重セラレタキコト

十二、臺灣銀行券ニ付テハ外交上ノ正規ノ手續ニ依ル回收ニ至ル
迄ハ行政手段等ニ依リ其ノ價值ヲ喪失スル下落セシメザル様
措置セラレタキコト

十三、接收後ニ於ケル通貨ハ正當ナル手段ニ依ル臺灣銀行券ノ
回收ニ至ル迄ノ期間、中國政府ニ於テモ臺灣銀行券ヲ
使用シ法幣、縣銀券又ハ田表赤單票等ノ使用ヲ避ケ
ラレタキコト
未發行通貨約七億（内地ヨリ
密送ノ予定）（昭、二〇、九、五）

第五部長殿

台灣情報

農

台灣總督府より電話連絡

陸長官は二十四日着台に於て昨日台湾總督宛命令あり

其内容概ね左ノ如シ

台湾總督ノ一切ノ職權ハ之ヲ取消シ「總督」ノ名ヲ

台湾地區日本國除戰後連絡部長ト改メ陳長官

ノ指揮ヲ受ケ其ノ命ヲ部下ニ伝達スル責ニ任ジ新ニ命

令ヲ弁スルコトヲ禁ズ

台湾ノ地域ハ總テ之ヲ接收シ軍司令官及總督ノ權限

ハ總テ之ヲ取消ス

3
台湾
總督

台灣情報

一 米軍八石垣島地區接收ヲ終リ十百大東島接收

ヲ開始ス

二 引揚ノ為北大東島二十四日新九洲大島二十二日海防

艦各一隻入港ノ事定

昭和廿年五月六日

內務省管理局

台灣總督府各部接收開ル件

(台灣總督府電報々告)

十月三十日附萬秘書長名、中國側接收員派遣通
報ニ基キ台灣總督府各部局概テ上月一日午
前九時接收セラシ一應交替ヲ了シタリ
接收ノ精確ナル内答ニ付テ未ダ判明ナル者概況
尤、通

記

被接收台灣總督府局

中國側接收機關名

部課名

官房文書課屬議係

法制委員會

官房情報課

宣傳委員會

地方監察課

文教局教學課

民政處

接談課

教育處

財政局

民政處

鑛工局

民政處

農商局及食糧部

農林處

商政課

民政處

警務局

警務處

法務部

法制委員會

交通局

交通處

專賣局

專賣局

高等法院

中國側法院

其、他圖書館、博物館、氣象台、糖業試驗所、林業
 試驗所、台灣新報社、台北放送局、同盟及內地新
 聞社、支局等、接收了り
 但、官房秘書官室、人事課及法令審議以外
 文書課ハ未接收ナリ
 接收ノ内容ハ官印、職員、簿冊、備品、其他、賦
 產、シテ職員ニ付テハ各局部課共、課長（交通局
 兩部長ヲ含む）以下全員ヲ接收シ原則トシテ
 従来ノ如ク執務セシメ、局長ニ付テハ、銘ニ局長カ
 銘ニ局長ト同一場所ニテ執務ヲ命ゼラレタル外ハ
 全部一應離職シタルモノトシテ、取扱モモノノ如シ
 但、行政公處ニ於テ必要ナル場合ハ、隨時度
 要案件ニ就キ協力ヲ求メラルル筈ナリ

本件経過先

大臣 次官 陸軍 情報局 外務省

電報案

(陸軍電)

進駐受入
支那關係

台湾ニ関スル停戦協定ニ関シテハ台湾カ完老セル秩序ニ
下日支兩國民族多年ニ亘ル平和的治寧ニ依リ産業
經濟文化ヲ發展セシメ未リタルモノニテ帝國トシテハ支那
領有下ニ於テ又支那側ニ於テ之等秩序ヲ尊重シ且ソ日
本人ノ治寧ヲ活用シ台湾ヲシテ將來ニ於ケル日支親善
友好ノ模範地トシテラシメラシムル切望スル次第ニシテ
之カ爲停戦協定實施ニ當リテハ(一)將ニ日本軍ノ武装解
除直後ニ於ケル治安ノ維持ニ留意シ上左由日本人ノ生
命財産ノ保護ニ万全ヲ期スルト共ニ(二)行政經濟全
融産業等ニ亘リ出来得ル限リ豫元有ノ秩序組織
ヲ活用シ混亂ニ陥ラシムルコトナキ様先方ノ諒解ヲ得ル如ク

(日本標準規格B5)

外務省

0061

台湾

A.1.0.0.1-2

御努力相成候
之カ具体的措置ニ関シテハ現地軍總督ト中國側責任
者トノ間ニ於テ右方針ニ對シテ話合ヲ取進ムル如ク致度
尙中國陸軍總司令部備忘録第六號ニ對スル回答
ハ別紙ス

(日本標準規格B5)

外務省

0062

中國駐中國陸軍總司令部備忘錄 中學第六號

中華民國三十四年八月二十五日

一、凡ソ日軍現駐地内一切行政組織及日軍、扶植セル偽組織ハ直ニ尙該組織既有人名、財產簿、公文書、証書、土地、建物、金器具、印信等ハ總テ目錄ヲ作成シ且、人員ヲ指定シテ責任ヲ以テ保管シ接收ヲ待メシ移転、破壊、喪失、隱匿等ノコトアルヲ得ヌ

前項ニ稱スル行政組織トハ各種機關、銀行、學校、病院及同組織ノ經營專ハ占有スル各種工廠、炭坑、商店、倉庫、公共事業等ヲ包括ス

二、凡ソ歸納及金融機關ハ公債、庫券、紙幣及紙幣ニ類似スル手形、印刷済ニシテ未捺印ノ手形及之カ

外務省

(日本標準規格B5)

洞版並財產、現金、證券帳簿及保管、公債庫券基金、紙幣捺印ノ準備金等一切ノ保管財物ハ總テ捺印保存スルト共ニ係員ヲ派遣シ原管理人ト共ニ責任ヲ以テ保管シ接收ヲ待メシ

三、日本軍總司令部及所屬各部隊並各級糧食管理組織ノ各地ニ於テ保有シタル糧食、運送器材、包裝材料、倉庫施設、糧食工場及其他糧食関係器材ハ直ニ各地ニ毎ニ種類、數量、集積地等ノ詳細者ヲ作製提出シ接收ヲ待メシ接收者ニ於テハ倉庫ノ糧食及一切ノ器具、器材施設等ハ日本軍ニ於テ係員ヲ派遣シ責任ヲ以テ保管スヘシ空陸上ニ移送中ノ糧食ハ其經營者ニ於テ直ニ最寄ノ港灣都市ノ倉庫ニ交付シ貯蔵保管スヘシ軍用糧食工廠及日

外務省

(日本標準規格B5)

本人、投資或ハ合弁ニ依ル糧食工廠ハ夫々原經營者或ハ
支配人責任ヲ以テ其ノ完整ヲ保持スヘシ

四、經濟生產事業ニ關係ル組織及占有或ハ野産ニア
ル物資ニシテ液体燃料、石灰、綿花、綿糸布、生糸、硫
糖、茶、豆、羊毛、皮革、紙、油類、金物、器械及鋁產品
等ハ總テ日本軍ヨリ保管ヲ派遣シ原保管人ト共ニ責任
ヲ以テ保管セシメ接收ヲ待タシムヘシ其ノ各項組織ノ經營
或ハ占有シアルモノニシテ各種事業ト需要關係ヲ有ル電
力、水道、瓦斯、炭坑等ハ接收迄依然供給ヲ繼續スヘシ
五、公共事業中鉄道、公路、水運、空輸、郵政、電信等ノ
各交通事業^運業^業ノ業務ハ接收前ハ一律ニ平常通り維持
シアルヘシ又本總司令ノ中序第四條條志録第一條第
六款ニ基キ速カニ解放スヘシ

外務省

六、教育文化ニ關係アル公私文物、圖書儀器古書古物、
拓本、書畫、建築、彫刻、美術品及一切ノ文献ハ接收
前ニ於テハ原保管人ニ於テ責任ヲ以テ保管スヘシ毀損
スヘカラス

中國戰区中國陸軍總司令陸軍一級上將 何應欽
本條志録ハ本總司令部副參謀長冷欣中將ヲシテ回林軍次
將軍ニ手交セシム

外務省

現地ニ於ルニ停戦協定ニ際シ台湾ニ関シ考慮セシメノキ事項

台湾ハ従来支那大陸ノ事情ヲ異ニシ別箇ノ完整ナル行政組織ヲ具備シ来リタルヲ以テ之ガ接收ノ場合ニ於テモ既存ノ行政組織及社会経済ノ秩序ヲ尊重ノ上之ガ活用ヲ圖ラント考ヘ特ニ左ノ諸点ニ関シ特段ノ考慮ヲ拂ハシ度
一中国駐屯中国陸軍司令部備忘録中字第一号ヲ以テ條一
二而テ多ク財務及金融機関ノ運営ニ付テハ台湾島内ノ経済秩序維持ノ爲メ當ルニ限度ニ於テ之ヲ許容セシムキニト

三、今才三才ニ示サレル糧食・運輸器材・包装材料・倉庫施設・糧食工場等其ノ他ノ糧食関係材具器材ハ台湾

外務省

(日本標準規格B5)

島民ノ生活維持ノ爲メ當ナル限ニ於テ之ヲ使用セシメラシメキニト

三、今才四第ニ示サレル事項ニ付テハ台湾島民ノ生活維持ノ爲メ必要ノ限度ニ於テ運営並ニ供給ヲ繼續セシムルニ其ニ之ガ保安ノ責任ハ既存ノ行政組織ノ系統ヲ以テ之ニ當ラシムラシキニト
四、中国軍ノ台湾進駐ニ付リテハ特ニ治安ノ維持ニ関シ特段ノ留意ヲ拂ハシ度之ガ爲メ左ノ措置ニ付テ考慮セシムキニト
四、日本帝國軍隊ノ武装解除後ニ於テモ現在ノ警備組織ヲ強化シ武装警備態ヲ思ハ治安維持ニ協力セシムキニト

四、台湾島内各地域ニ自治自衛組織ヲ設キ相互扶助ニ

外務省

(日本標準規格B5)

依此自存自衛ノ途ヲ拓カシメキト

五、台湾存住邦人ノ生命、財產、居住、學業ノ自由ヲ尊重セ
ルルトテ、特ニ在ノ諸英ニ付考案ヲ賜ハシメキト

六、在住邦人ノ生活維持上必要ナル限ルニ於テ相互扶助ニ因ル
措置ヲ容認セシメキト（例、援渡団体ノ設置等）

七、農業移民其他ノ内地人ト日本政府トノ間ニ結託セシメル
土地其他ノ國ニ對シテ、中國政府ニ於テ繼承セシメキト

八、現存ノ重要企業ニハテハ事業復元限リ日華協同ノ建前ノ
下ニテ尊重保護セシメキト

外務省

(日本標準規格B5)

七、中國軍ノ進駐ニ依リ台湾ニ軍政施行セシ總督府ノ機
能休止スル場合ハ之ニ據リ在住邦人ノ保護、企業ノ整理等ニ
任ズル日本帝國ノ出先機關ノ設置ヲ思ハシメキト

八、台湾在住邦人中本土引揚ヲ希望スル者ニ對シテ、特ニ便宜
ヲ許容セシメキト

九、台湾ニ於ル文化、自然兩科學ノ水準ヲ維持シ（更ニ之ヲ發
展ヲサレル）其ノ人的基礎ニ對シテ、邦人ニ對シテ特段ノ配慮ヲ
施シキト

十、鐵道、通信、港灣、產業等ニ於ル邦人職員ノ処遇ニ對シテ
極力之ヲ活用ヲ考慮セシメキト

外務省

(日本標準規格B5)

十一、侵存金融機関には、至清混乱ヲ生セザルニ付其ノ
 債取債務ヲ尊重セシメキト

十二、台湾銀行券は、外交上ノ正規ノ手続ニ依ル回收ニ到ル迄ハ
 行政手続等ニ依リ其ノ價值ヲ喪失スハ下格セシメサル程措置シ
 セシメキト

十三、接收後ニ於ケル通貨ハ正當手続ニ依ル台湾銀行券ノ回收
 ニ至ル迄ノ期間、中國政府ニ於テモ台湾銀行券ヲ使用シ
 得ル法幣、特種券又ハ日圓標表手続等ノ使用ヲ
 許セシメキト

(昭和二〇、九、五)

(3)

(日本標準規格 B5)

外務省

中一

略號普通電報

宛陸軍次官

臺電才九三六號

臺灣軍管區參謀長(台北)

昭二〇二・三一

治安一般狀況

逐次悪化シテリ殊一本島学生青年層ノ不法越軌事件頻
発シテ憂慮スベキ状態ニアリ

軍記ノ緊縮ニ関シテハ將校ノ自肅ト信賞必罰ノ勵行等ハ
監督指導ヲ嚴シアルモ一部ニ尚非違犯行後ヲ絶タズ

又上官身ヲ以テ軍紀ヲ振作スベク部下下士官兵ヲ殺傷見
件ニ件発生セリ

軍關係ヲ接收ハ十一月一日ヨリ開始セラレ

臺北(軍司令部才六十六師團軍直部隊)

基隆(独立混成才七十六旅團)

宜蘭(独立混成第百十二旅團船舶工兵才天聯隊一部)

A-1-0-0-1-2

中一

隊了以目下花蓮港、臺南(独立混成第百二旅團)

及新竹(才九師團)附近ニ實施中ニシテ概木圍滿裡ニ

進行中ナリ

一港不備、港灣主、都市飛行場及交通機關等ノ復旧工事

ノ爲武装解除後、軍隊ヲ以テ作業開始豫定

(終)

總務部長

昭和二十一年二月十日

總務課長

臺灣ノ現況

外務省管理局總務部南方課
(外務省四階四〇六号室 齋藤)

1.0.0.1-2 (終)
終戦前ノ島内情勢

一 緒

現在日本ノ内地ト台湾間ノ交通又信ハ在内地ノ台湾人送還及在台湾ノ日本軍人軍属ノ送還並安否向合セノ葉書通信ニノミ限ラレ官吏ノ来往ハ勿論資料ノ送付等ハ嚴重ナル取締下ニ禁止セラレ從テ現在台湾ノ實情ヲ正確ニ把握スルコトハ極メテ困難ニシテ誤ナキヲ保シ難キモ今日迄ノ諸情報ヲ綜合シ一應取纏メタルモノナリ

二 終戦前ノ島内情勢

台湾ハ戦前ノ兵力一万ニ滿タゲリシ処終戦前ニ於テハ陸軍三〇万(内本島ヘラ含ム島内兵員五万)海軍四万ニ達シ居リ台湾總督ハ台湾軍司令官ヲ兼ズ軍官民一致ヲ以テ島民ヲ擧ゲテ台湾ヲ死守シ敵ノ進攻アラバ台湾ニ於テ其ノ戦力ヲ消耗セシメ戦勝ニ寄与セント台湾全島要塞化ノ目標ノ下ニ軍官民ノ意氣高ク正ニ其ノ最高潮ニ達シアリタリ

總督府ハ台湾軍參謀部、海軍警備府參謀部ト共ニ合一廳舎(法院ア舎)ニ入り地方ガモ亦各地方軍首腦部所在地ニ代表幹部ヲ駐在セシムル等軍

官相互連絡ヲ密ニシ中央地方ヲ通ジ何レモ軍官連絡會議ヲ常時開催シ向
隙ナカラシメツ、アリタリ
島民亦良ク我施策ニ協カシ皇民奉公會ノ精神運動ニヨリ報國ノ氣運盛リ
上リ台湾領有以來未ダ曾テナキ皇民化ノ実ヲ奉ゲ敵ノ進攻近接ニ後ヒ戰
闘行為ニ直面スルノ場合ヲ考慮シ後來ノ精神運動団体タル皇民奉公會ヲ
發展的解消セシメ実行団体義勇隊ヲ結成シ全島的ニ討敵直接行動ニ移リ
得ルノ態勢ヲ整へ居タリ

三、終戦時ノ概況

總督府ハ直チニ部局長會議、軍官連絡會議ヲ開催シ治安ノ維持、人心安
定ニ最善ノ努力ヲ拂ヒタル処八月十五日突如下シテ終戦ノ御放送ヲ拜シ
タル一般島民ハ内地人タルト本島人高砂族ヲ向ハズ一時呆然トシラ為ス
所ヲ知ラザル狀況ニ在リタリ

内地人ハ勿論本島人、高砂族モ共ニ敗戦ヲ悲ミ將來如何ナル狀況下ニ置
カル、ヤカ懸念シ只管事態ヲ静觀シツ、アリ何等憂フベキ事態ヲ發生セ

外ニ

ズ

本島人青年ハ既シテ敗戦ノ悲嘆ニ暮レ日本治下ニ在リテ之ニ協力セル五
場上中國ノ処遇芳シカラザルヲ憂、若人層亦曾テノ支那統治時代ノ懸
察状態ヲ想起シテ不安ニ戰マ高砂族ノ如キハ純真ニ敗戦ヲ嘆クト共ニ曾
テノ支那領時代ノ在政ヲ再現セラル、ヲ憂ヘタリ

四、終戦後ノ狀況

(甲) 接收狀況

(一) 準備行為

(1) 八月卅日重慶ニ於テ台湾省行政長官公署組織及主要幹部任命發
表セラレ探儀ヲ中國台灣省行政長官兼台灣省警備司令ニ任命

(参考)

○台湾省行政長官公署組織

- 一、台湾省行政長官隸屬行政院依據法令綜理台灣全省政務
- 二、行政長官於其職權範圍內得發署令並得制定台灣單行條例及

(5)

規程

三、行政長官得受中央依託，并理中央行政對於在臺灣之中央各機關有指揮監督之權

四、臺灣省行政長官公署設左列各處

- 一、秘書處
- 二、民政處
- 三、教育處
- 四、財政處
- 五、農林處
- 六、工鉉處
- 七、交通處
- 八、警務處
- 九、會計處

五、行政長官公署必要時得設置專管極端或委員會視其性質隸屬

於行政長官至各處之組織由行政長官決定之

六、行政長官公署置秘書長一人輔佐行政長官綜理政務並監督各處及其他專設極端事務，秘書長下設極要室、人事室、各設主任一人

七、行政長官公署會計處設會計長一人，各處得設置處長一人承行政長官之命綜理各該處事務並指揮監督所轄極端事務及所屬職員，各處設主任秘書、秘書、科長、技正、技士、視察、技佐、科員，并專承上官之命分司事務其員額另定之

八、行政長官公署設參事四人至八人

九、行政長官公署得置顧問，參議諮議等聘用人員十本大綱公布日施行

○ 臺灣省行政長官公署主腦部人事

行政長官 陳 儀

行政長官公署秘書長

葛敬恩

- 秘書処長 錢宗起
- 民政処長 周一鶚
- 教育処長 趙迺傳
- 財政処長 張廷哲
- 農林処長 張蓮芳
- 工鈔処長 包可永
- 交通処長 徐學禹

(3)(2)

八月下旬數名ノ米軍ヤ人及中國軍人非公式ニ米台(狀況偵察監視任務)ニ降書ニ
 九月九日午前九時南京ニ於テ岡村將軍ハ何應欽トノ向ニ降書ニ
 調印台湾ヨリハ諫山台湾軍參謀長高確警備府參謀副長須田台湾
 總督府農商局長及民間人林獻堂、許丙、辜振甫ノ三名ヲ派ス又
 南京ヨリノ招聘ニヨリ林獻堂(前記)、林呈錄、羅萬傑、陳斯外三
 ノ旧文化協會系統民間人ノ渡支アリ

(4)

(1) 十月五日中國台湾省行政長官公署秘書長葛敬恩ハ中國前進指
 揮処主任トシテ顧問タル米國軍人數名ヲ含ム一行一五名ヲ
 率イテ午後四時着台シ前總督官邸ヲ事務所トシ直チニ前進指
 揮処通告、進字第一号ヲ交付ス

(要旨)

- 1. 陳儀上將着任前ハ一切ノ行政、司法、交通、信、教育ノ維持、繼續命令
- 2. 台銀券ハ引継キ流通許可ス
- (ロ) 九部門ノ接收專門委員ヲ設ク(民政、教育、財政、農林、鈔工、交通、市政、新聞放送)
- (5) 十月七日旧總督官邸ニ於テ台湾總督ニ對シ台湾省行政長官公署備忘録台政字第一号及第二号ヲ軍司令官ニ對シ台湾省警備司令備忘録軍字第一号及第二号ノ交付式ヲ舉行シ夫々手交ス

(要旨)

(一) 政字第一号

- 一、陳儀行政長官ハ蔣委員長ノ名ニヨリ台湾ノ領土人民其他一切ヲ接收ス
- 二、總督ハ尔今行政長官ノ一切ノ命令ヲ奉行シ所轄機關ノ履行事項ノ責ヲ負フベシ
- 三、總督ハ下記事項徹底実施方監督ノ責ヲ負ヒ本長官派遣員ノ接收ニ備フベシ
 - イ、凡エル交通々信、生産、貯藏、文献、資料、研究ノ現状維持保存
 - ロ、現行警察ニヨル治安ノ良好ナル維持、日本官吏ハ現職ヲ保テ行政ヲ繼續スベシ商工業ハ廢スベカラズ學校ハ授業ヲ停止スベカラズ
 - ハ、改姓名ノ許可停止
- 四、總督ハ下記各項ノ調査書ヲ十日以内ニ完成提出スベシ
 - 一、總督府及所屬機關ノ二十年曆予算及實際收支概況
 - ロ、公營事業ノ機構分布資産業務狀況
 - ハ、金融機構經營業務及分布
 - ニ、台湾銀行券發行狀況ノ詳細
 - ホ、物価指示表
 - ヘ、政府投資事業狀況
 - ト、右以下十八項目ニ亘ル産業行政教育等ニ關スル詳細ナル調査

内三

(二) 政字第二号

- 一、台湾幣制整理前ニ於テハ現行幣制ヲ採用ス
 - 二、行政長官公署及前進指揮處ノ必要トスル資金ニ充テルタメ即時台銀券三千万圓ヲ提出シ且ツ主任ノ必要ニ応ジ即時並隨時提供スベシ
- 十月十一日財政接收専門委員ヨリ左ノ指令アリ

(12)

- 1. 台湾銀行券ノ増發停止及貸出抑制
 - 2. 公立機關ノ予算外支出制限
 - 3. 官營事業ノ收支及專賣品保管數量ノ週報提出
- 十月十三日前進指揮処布告台進字第二号交付

(要旨)

1. 中華人民ハ日本人ノ公私財産ヲ買取ルベカラズ
政字第一号ヲ知ラズシテ八月十五日以後財産ヲ買取リ或ハ改
姓名ヲナシ營業ヲナシタル者ハ速ニ申告シ現物ヲ元所有主ニ
返還スベシ

- 2. 日籍官民ハ法ヲ遵守シ法ニ抵触スル勿レ若シ犯行アルトキハ
本人ノミナラス累ヲ政府ニ及ボス
- 3. 右遵守セヨコ、ニ布告ス

- (8) 十月十六日? 行政長官公署々員第二次ニ〇〇名看台
- (9) 十月十七日 中國進駐軍約九〇〇〇人基隆上陸

外外
四三

(10)

前進指揮処布告台進字第三号
(要旨)

不法行為禁絶スルモ嚴重ニ処置ス

1. 台湾ノ主權ハ中國ニ接收セラレタルモ正式事務接收前ハ現存
機關ニヨルモノナリ右ハ中國政府ノ命ニヨル執行ナルガ故
人民ハ遵守セヨ

2. 台湾ニ在ル者互患互助スベシ 有力者ハ指導ニ任シ各地方実
際ノ必要ニ応ジ必要限度内ノ地方服務隊ヲ編成シ軍警ト協力
スベシ

3. 日籍官吏ハ確實ニ責任ヲ以テ地方ノ治安維持ニ精勵セヨ
4. 日籍居留民ハ本処ノ命令布告ヲ遵守奉行セヨ中華軍民ニシテ
濫リニ不法ヲ為ス者アルトキハ嚴重ニ制裁ス

- 5. 中華官憲ハ責任更シ忠實ニ職務スベシ不法行為ハ嚴重処罰ス
- 十月十九日前進指揮処台進字第四号「公布」

(13)

(要旨)

- (1) 國籍ノ如何ヲ向ハズ現行税則ニヨリ約税ノ義務アリ
- (2) 十月廿二日、中國進駐軍約八〇〇〇名着台
- (3) 十月廿四日、陳儀行政長官兼警備總司令以下勅任四、奏任四〇〇名着台

(二) 接 收

(1) 十月廿五日前總督官邸ニ於テ受降式奉行セラレ陳儀ヨリ總督ニ對シ命令書第一号手交

(要旨)

- 1. 支那派遣軍總司令官岡村大將ハ台湾澎湖島ニ在ル陸海軍ヲモ率テ何處ニ無條件降伏セリ
- 2. 本官及本官ノ指定スル部隊及行政官ハ台湾澎湖島ノ地区ノ日本陸海空軍及其補助部隊ノ投降ヲ接受シ併ヒテ台湾澎湖列島

内 四

ノ領土、人民地政、軍政施設及資産ヲ接受ス

- 3. 貴官ハ凡ソ台湾總督及第一〇方面軍司令官等ノ職權ハ一律ニ取消シ台湾地区日本官兵善後連絡部長ト改稱シ本官ノ指揮ヲ受ケ屬下ノ行政軍事等一切ノ機關部隊人員ニ關シテハ本官ノ命令訓令規定指示ヲ傳達スルノ外如何ナル命令ヲモ發スルヲ得ズ
- 4. 貴下ノ部下ハ本官ノ指定シタル部隊長官及接收官吏ノ命令規定指示ノ傳達ヲ為シ得ルニ上リ自ラ恣ニ全テヲ処理スルヲ得ズ
- 5. 貴下自身並ニ所屬一切ノ行政軍事等ノ機關部隊人員ニ命シ直チニ迅速確實ニ何時ニテモ命ヲ待ツテ交替シ得ル如ク準備ヲ始メベシ若シ後讓スベキ物件ニソキ不正アラバ必ズ糾明処断ス
- 6. 以前ニ貴官ニ宛テタル各号ノ備忘録及前進指揮処主任葛敬恩

官房	文教科	警務局	文教科	財務局	農商局	鉦工局	農政(商政)局	同局食糧部	警務(衛生課ヲ除ク)局	交通局	專賣局	高等法院
地方監察課	援護課	衛生課	教學課	商政課								
民政處	教育處	會計處	財政處	工鉦處	農林處	警務處	交通處	台灣省專賣局	台灣省法院			

(ハ)

職員ニ付テハ鉦工局長逓信部長鉄道部長專賣局長ヲ除クノ外各局部長ハ出勤ニ及バズト排除シ各課長以下ハ其ノ俸一不徵用使用セラル

2. 台北市及台北市

(イ) 台北市ハ州知事ヲ排除シ各部長ハ顧問トシ課長(警務課長

高等課長ハ排除)以下ヲ使用

(ロ) 台北市ハ市長ヲ排除シ助役ハ顧問トシ課長以下ヲ使用

3. 其他接收セラレタルモノ

圖書館、博物館、氣象台、糖業試驗所、林業試驗所、台灣新報社、台北放送局、同盟通信社、内地新聞在支局等

(6) 十月廿八日従来未接收ナリシ總督官房、秘書官室、人事課、文

書課及外事部接收サル

(乙) 終戦後ノ一般概況

(20)

(一) 政治

(1) 中央行政

(イ) 組織

國民政府行政院ニ隸屬スル行政長官ヲ長トスル台灣省行政長官公署ヲ中央行政廳トシ其ノ下ニ秘書處、民政處、財政處、農林處、工鉉處、交通處、警務處、會計處ヲ置キ別ニ行政長官ヲ輔佐シテ政務ヲ綜理シ且各處ノ監督ヲナス秘書長ヲ置ク

(ロ) 運官

十月廿四日陳儀行政長官以下ノ台灣到着ニ依リ一応態勢ヲ整備シ翌廿五日ヨリ發足シ十一月一日台灣總督府各局部ノ具體的接收ヲ為シ後未ノ總督府課長以下ノ職員ヲ使用シテ(但シ其ノ後續々罷免セラレツ、アリト)運営ヲ開始ス而シテ其ノ狀況ヲ見ルニ十月廿九日孫文追悼禮拜式上陳儀長官ノ表明セル台灣三大行政策ナル民生向上、教育普及、民意

外
五

表明微肉ノ創立スラモ未ダ其ノ實現ヲ見ズ概シテ行政能力薄弱ニシテ台灣省政府ニ對スル島民ノ信賴感ハ極メテ薄キモノ如ク、台北地區駐在ノ米軍將校等ノ見解モ中國當局ノ無計畫性ト遲々タル施策振リヲ指摘シ經濟的ニ新タナル混亂ニ陥レル危險アリト見做シ國有財產等ノ接收スラ數年ヲ要スルモノト觀測シ居ルモノ、如シ

(2) 地方行政

(イ) 組織

後未ノ州、縣、郡、市、街、庄ヲ其ノ區劃ノ終、縣、特別市、郡、鎮、郷ト改称シテ行政ヲ實施ス

(ロ) 運官

台北市 台北市ハ十一月一日、他ハ十二月八日中國人ヲ長トスル接濟委員會ニ依テ接收ヲ為シ其ノ長ニハ中國人及台灣民間人ノ登庸ヒル者ヲ充テ一般職責ハ大部分後未ノ職員ヲ使用

(21)

(22)

(但シ其ノ後續々罷免セラレツ、アル由) シツ、アリテ其ノ
運営状況ハ無計画性ト施策ノ緩漫トニ依リ台湾人ノ信頼ヲ未
ダ得ザルモノ、如シ

(二) 経 済

(1) 金融通貨

日本銀行券ハ流通禁止セラレ(之ガ所有者ハ一軍ノ定期預金ヲ
為サシメラル) 目下唯一ノ通貨ハ暫定的ナルモ台湾銀行券ノミ
(但シ千円券ハ強制預金ヲ為サシメラル) ニシテ台銀券ト法幣
及弗トノ交換ハ禁止セラレ曩ニ中国銀行ノ台湾進出ノ報アリタ
ルモ設立準備中ニシテ新通貨モ目下上海ニ於テ印刷中ナリト
右交換禁止前ハ交換レートノ思惑ニ依ル金融不安アリタルモ現
在ハ表面的ニ不安ナク法幣ハ戎克ニ依ル支那本土トノ密貿易ニ
専ラ使用セラレ台北市大稻程(台湾人所) ニテハ秘カニ弗買ガ
行ハレ居ル由ニシテ十一月頃ハ米貨一弗四十円乃至五十円ニ上

(23)

(2)

産 業

終戦後ノ産業事情極メテ不明確ニシテ在合日系事業ハ全部接收
セラレタルモノ、如ク経営者、幹部ニ止マラス技術労務者ヲモ
台湾人ニ依リ運営セラルベシトノ論議横行ノ由ナルモ現実向懸

(24)

トシテ事情再建ノ努力ハ邦人ノ力ニ俟ツモノ多大ナリト慰料セラル

會社、工場等ハ何レモ中國側專門委員ノ管理ニ依リ操業ノ方針ナルモ現在操業シ居ルハ台湾拓殖、台湾電力、製糖工場、石炭セメントノ如キ一部ノミナリト

尙十月浙江財閥ノ台湾進出ヲ許サバル旨ノ陳儀長官ノ声明アリタル由ナリ

(3)

物価及物資配給

生活又需物資配給極積ノ混乱、廢止ニ依リ物価ハ主要食糧ニツキ公定価格アルモ警察ノ無カト相俟テ闇価格ヲ生ジ昇騰ノ一途ヲ辿リツ、アリ而シテ物価指数ハ終戦時ヲ基トシテ花ノ如シ(一月末現在)

食糧品 一一・八
衣料品 一六・八

燃料 一一・〇

金屬製品 二五・三

雜品 八・九

家賃 一・八

配給制度ハ全部撤廢セラレ米穀ニツキテ南部地区米作不良ノ為絶対量ニ不足ヲ生ズル予想ニシテ之ガ価格ハ米一升二〇円ナリト

(三)

治安

終戦直後ハ全島民ヲ牽ゲテ呆然トシ只管靜觀ノ態度ヲ持シ居リタルモ日時ノ経過ニ伴ヒ台湾人ノ対内地人感情漸ク悪化シ新聞及各地方ニ於テ結成セラレタル三民主義青年團、學生聯盟等ニ於テハ日本誹謗ノ論議ニ行ハレ警察ノ無カト相俟ツテ各地ニ暴行、強盜強要、立退要求等頻發シ或ハ後未ノ警察署、警察官更迭出所ノ襲撃、或ハ會社工場団体ノ指導者ヲ改行シ或ハ學生ハ登校セントス

(25)

(26)

ル内地人子弟の政打ス地等ノ不詳事件相当發生シ學生及徒ノ鑿
不可能ト謂ハル。台北市大福程（台湾人町）ノ邦人往來ハ嚴禁ニ
シテ他町ニ於テモ一般ニ夜間ハ外出不能ナリト

(四) 交通々信

台湾内ニ於ケル交通々信ハ接收セラレタル後米ノ機關ニ依リテ行
ハレ郵便の手等ハ新タニ特殊ノモノヲ印刷使用シ居レリト
但シ各県内ノ日本人ノ未往ハ原則トシテ禁止セラレ居ルト傳ハラ

(五) 教育

大学以下各学校ハ接收後其ノ校長ハ全部罷免セラレ國民学校モ内
地人教員ハ殆ンド退職シ台湾人教員之ニ代レリ
文政系統ニ就テハ思ヒ切ツタル教授ノ整理ヲ実施シタル為専門学
校ノ如キハ本邦人教師ハ二三居ルノミニシテ事實上ハ休校同然ノ
姿ナリト

内
七

(六) 報導機關

各学校ニ於テハ使用語ハ暫定的ナルモ日本語ヲ使用シ居ルモ中國
語科ヲ新設シ修身、尺、地理ノ授業ヲ禁止セリ

放送局及後米台湾最大ノ報導機關タル台湾新報ハ十一月一日接收
セラレ（新生報ナル名称ノ下ニ中國側報導紙ニ轉ズ）タルヲ初メ
トシ公私凡テノ報導機關ハ接收セラレ、内地報送ハ戰時中ヨリ輸
送難ノ為ラテテ部分品ノ欠乏ニ依リ聴取不能ニシテ台湾在住ノ本
邦人ハ中國側政策下ニ於ケル報導ノミヲ耳ニスルノミニシテ不安
焦燥ヲ感シ居リタルヲ以テ前情報部職員ニヨリ本年一月ヨリ月刊
雜誌「新声」ノ発行ヲ見タリ、其ノ掲載内容ハ中國ノ政策解説及
日本ヲテオニユースノ轉載ニシテ本邦人唯一ノ日本語ニヨル刊行
物ナリ

因ミニ新聞紙新生報ハ四頁ノ中一頁ヲ日本語版トナシ居ルモ内地
ニユースヲ掲載スズ又記事内容ハ煽動的ナルモノ多ク反日的民情

(27)

(四) 本邦人ノ生活
概況

一般邦人ノ生活ハ終戦後急激ナル変化ナカリシニ為平穩ナリシモ其ノ後前述ノ如ク台湾人ノ対内地人感情悪化シ治安ノ乱レルニ伴ヒ生活ニ不安ヲ生ジ来タリ不動産ノ賣買ハ禁止セラレ、動産ノ賣買モ原則トシテ禁止セラレ居リ一方ニ於テハ配給制度廢止セラレ物価ノ昇騰止ル所ヲ知ラザル如キ様相ニ不安感増大シ殊ニ官吏ハ一部中國側ニ使用セラレ居ル者ヲ除キテハ收入ノ途絶エ所持品ノ賣却、労働等ニヨリ辛ウジテ生活ヲ續ケ居ルモ之亦漸ク行詰リ又商人モ終戦前ヨリ長期間商品ノ内地ヨリノ輸送杜絶シ居リシ為商品ノストック無キノミナラス現地ノ対日感情悪化ノ結果原料ノ供給思ハシカラズ之亦窮境ニ在リト

(2) 援護

(イ)

日本側ニ於テハ官公衛ハ勿論復兵ノ援護會(前戦時援護會)等何レモ前管資金全部ヲ接收セラレタルヲ以テ公的援護ノ實施不可能ナルヲ以テ日本人會又ハ居留民會等ノ団体新設ニ依リ援護ヲ實施セントシケルモ中國側ニ於テ之ガ新設ヲ認メズ且「在日日本人ノ援護ハ中國側ニ於テ實施スレト称シ居ルモ未ダニ之ガ實行ナシト、依ツテ日本側ニ於テハ民尙相互扶助的団体ノ統合ニ努メツ、アリト
従ツテ在日邦人ハ各自所持品ノ賣却又ハ古着ノ仲買或ハ他人ヨリノ借用等ニ依ル相互扶助或ハ勞力提供等自力ニ依リテ辛ウジテ生活ヲ維持シツ、アル現状ニシテ援護ヲ要スル対象ハ急激ニ増加シツ、アル模様ナリ

(ロ) 本邦人ノ引揚

(1) 本邦人ノ生活前述ノ如クナルヲ以テ当初ノ平穩ナリシ際ニハ在日邦人四〇方(軍人軍屬ヲ含マズ)中東亞過半数ノ現地に相当

(29)

(30)

長期向殘留ヲ希望シ居リタルモ漸次内地引揚ノ決意ヲ固メルニ至リ在留邦人殆ント引揚グルニ至ル見透シナリ
而シテ引揚ニ関シ邦人間ニ論議トスレ居ルモ台湾省政府ハ邦人ヲ帰還セシムルヤ否ヤハ中國ノ向題ニシテ協カヲ必要トスル者ハ其ノ意思如何ニ不拘之ヲ殘留セシメ然ラザル者ニ付テハ其ノ意思如何ニ不拘之ヲ送還ストノ意思表示アリタル由ナリ
現在ノ引揚状況

(1) 現在引揚ノ實施シツ、アルハ中國側ノ軍人、軍屬優先主義勵行ニヨリ軍人軍屬ノミニ限ラレ一月末ニ於ケル其ノ狀況在ノ通ニシテ一般邦人ノ引揚ハ未ダ開始スルニ至ラズ(軍人軍屬ノ引揚ハ十二月下旬ヨリ開始セラレタリ)

種別	在台数	引揚数	未引揚数
陸軍	約二〇〇,〇〇〇人	一四三一五人	約一八五,六〇〇人
海軍	〃 三七,五〇〇	一五二〇	〃 三六,〇〇〇

(10)

現在引揚使用船舶(変動アリ)

一般	四〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇
----	--------	--------

(11) 現在實施ノ軍人軍屬ノ所持金品

艦種	隻数	収容力	備考
米艦	二	計四,〇〇〇人	臨時
海軍艦	三七	三九〇〇	△印ハ臨時
民船	三	四〇〇〇	
計	一八	二,八九〇〇	運會

a) 所持金

軍 属 一〇,〇〇〇円以下
 将 校 (真得士官準士官ヲ含ム) 五〇〇〇円以下
 下士官、兵 二〇〇〇円以下
 携行品

(31)

(32)

人、蒲団、服三着、シャツ三着、靴二足、米六升、乾パン、砂糖（飯盒一俵）羊羹三本乃至四本（但シ米ハ最近ニ至リ中止サレ且右ノ許可アリモ事實上全部ハ携行不能ナリ）

2. 國債ハ持帰リ金ト通算ノ上制限内ニテ許可

3. 郵便貯金通帳

4. 簡易生命保険証券、内地保険會社ノ発行シタル保険証券及内地ニ於テ発行サレタル銀行貯金通帳

但シ右ノ内2、3、4ニ就テハ台湾ニ於ケル中國取締軍隊ニ徹底シ居ラザルモノ、如シ

(二) 引揚者取締

台湾引揚出發時ニ於ケル中國軍隊ノ取締ハ極メテ嚴重ニシテ襪ノ中等凡ソ紙幣、文書等ノ隠匿箇所ト思ハレ、個所ノ探査ハ徹底的ナリ

(3)

引揚ノ見透シ

現在ノ輸送状況ヲ以テ進行セバ引揚者全部ノ輸送完了ハ少ク共本年末迄ニ實現困難ナリト思料セラレ、モ鹿兒島駐屯米軍側ノ意圖ニ依レバ一月末或ハ二月中旬迄ニLST四隻ヲ貸与シ台湾ヨリノ引揚用ニ充テ早急ニ之ガ完了ヲ期スル由ニシテ又台湾軍參謀長ヨリノ通報ニ依レバ現地ノ食糧事情漸次逼迫シツ、アル状況ニシテ目下一日九〇〇〇名（基隆ヨリ五〇〇〇名、高雄ヨリ四〇〇〇名）ノ引揚計画ニテ聯合軍司令部及中國政府ニ交渉シツ、アルヲ以テ之ガ實現セバ相当進捗スルモノト予想セラレ、由ナリ、尚今後右計画實現ノ曉ハ一般邦人ヲモ併行的ニ引揚實施トラル、予定ナリト

(4)

引揚者ニ關スル向題

台湾ハ他地方ニ異リ領有五十竿以上ノ長期ニ亘リタル為在住者中ニハ其ノ故郷ニ既ニ縁故ナク侵ツテ引揚グルモ行先ナキ者相当多數アリ之等ハ他地方ト同一ノ携行金品制限ヲ以テシテハ其

(33)

(34)

ノ引揚ハ自殺行為ニ等シク而モ現地ノ情況ハ引揚ゲザルヲ得ザル狀況ナル為之等ノ携行金品ノ制限緩和ハ引揚後ノ援護ト共ニ重大ナル商懸ナリ

(九) 本邦人ノ処理機關

昭和二十年十二月下旬台湾省政府ニ於テハ本邦人ノ処理機關トシテ日僑管理委員會ヲ設ク、同委員會ハ民政処所管ニシテ民政処長ヲ委員長トスル中國人官吏九名ノ委員ヲ以テ構成シ其ノ企画運営ヲ為スモ委員會ノ下ニ実行機關トシテ管理組、調査組、輸送組ノ三組ヲ設ケ各組ハ中國人ノ組長、副組長、下ニ日系官吏初任以下事務官、屬等ニ三十名ヲ入レ実行ニ当ラシムルモノナリ而シテ本委員會ハ發足後日淺キ為及企画運営ニ對スル日系官吏ノ發言权ナキ為未ダ其ノ活動軌道ニ乘リ居ラズト

(十) 台湾省政府ノ対日態度及狀況

(一) 中國再介石主席ハ台湾省行政長官公署ノ人事ヲ特ニ重大視シ其

内九

ノ主要幹部ニ付テハ慎重ナル態度ヲ以テ自ラ之ニ臨ミタリト謂ハレ派遣セラレタル主眼部ハ素質良好ナルモ下級官吏及軍人ノ素質ハ劣悪ニシテ主眼部ノ対日態度良好ナルモ下級者ノ實際的措置ハ又スシモ然ラズ

台湾人スラ其ノ素質及態度ニ對シ潑胆シ居レリト言ハル

(2) 右ハ良好ナル上層部下劣悪ナル下層部トカリテ其ノ中間ニ存ス

ベキ堅実ナル中堅層ナキヲ欠陥トストノ評專ラナル由ナリ

(3) 日系官吏ニシテ台湾省政府ニ使用セラレツ、アル者尠カラザル

モ重要事項ニ就テハ勿論参画ヲ許サレズ而モ各行政ハ諸員式ノモノニシテ全体的統一ナク綜合的行政ハ期待シ得ズ予算ノ如キモ綜合的見地ヨリ之ヲ編成スルコト不能ニシテ如斯狀態ニテハ未年度予算ノ如キハ編成困難ニシテ日系官吏ハ協力ノ余地ナシト慨嘆シツ、アル由ナリ

(35)

五、結語

(36)

台湾ノ現状ノ真相ハ多シキ情報（而モ之等情報ハ自己ノ苦心ヲ示ワン
 ガ為誇張セラレタルモノアルベク或ハ又反対ニ必要ナル憂ヲ懸念シ
 テ聴者ヲ樂觀セシメントスル意思ノ加ハリタルモノモアルベク或ハ又
 自己ノ周圍ノミノ極一部ノ状況ノミヲ以テ全般的情況ナリト遂断セル
 モノモアルベシ）ヲ以テ堅クニ判断スル事ハ危険ナルモ經濟情勢ノ変
 化ハ政治力ノ薄弱ト相俟テ治安其ノ他各方面ニ於テ本邦人ノ生活ヲ益
 マ压迫シツ、アルモノト概観セラレ台湾ハ終戰當時ト著シク其ノ趣ヲ
 異ニスルニ至リタルコトヲ窺ヒ得ベシ

(終)

ト
九

大日本帝國政府

目次

- 一 飛行機要目性能表 (二) (四) 該當事項)
- 二 在臺灣商船現況表 (二) (二) 該當事項)
- 三 臺灣ニ於ケル商港ノ位置及説明 (二) (八) 該當事項)
- 四 居留民被抑留者調 (二) (四) 該當事項)

(國定規格三三×三毛紙)

(共一四九)

第四號甲

一、飛行機要目性能表

昭和二十年八月三十一日現在

機種	機數	狀態	用途	搭載量	巡航速度	航程距離	所在地	所屬
六七型輸送機	六	使用可能	旅貨用	三〇〇	三〇	三〇〇	飛行場	日本航空
三一型輸送機	四	"	"	一〇〇	二八〇	三三〇	"	"
高練式輸送機	五	"	"	六〇〇	一八〇	五五〇	"	"
司便式郵便機	三	"	郵便用	四〇〇	三六〇	三〇〇	"	"
軍便式郵便機	三	"	"	三〇〇	一七〇	五六〇	"	"

臺灣總督府交通局

昭和十九年五月五日

臺灣ニ於ケル商港ノ位置及説明

商港ノ位置及説明

臺灣ニ於テ航洋船出入繫船ノ設備ヲ有スル商港ハ基隆、高雄、花蓮港ノ
三港ニシテ其位置及現況説明左記ノ如シ

尙書ノ外漁港程度ノ小港トシテ蘇澳、淡水、後龍、鹿港、東石、馬公
布袋、北門、安平、烏樹林、東港、~~海山~~、大板埕、臺東、新港等アリテ
漁船溜或ハ小型船溜トシテ使用サレツ、アリ

~~尙書~~ニ於テハ新高港工事中ナリシモ未完成ニテ開港ニ至ラズ現狀ハ漁
船、小型船ノ利用シ得ル小港程度ニ過ギズ